

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成25年2月13日
【四半期会計期間】	第49期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	株式会社あじかん
【英訳名】	AHJIKAN CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 中谷 登
【本店の所在の場所】	広島市西区商工センター七丁目3番9号
【電話番号】	(082)277-7010(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 業務推進本部長 兼 経営管理部長 樋口 研治
【最寄りの連絡場所】	広島市西区商工センター七丁目3番9号
【電話番号】	(082)277-7011(直通)
【事務連絡者氏名】	取締役 業務推進本部長 兼 経営管理部長 樋口 研治
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第48期 第3四半期 連結累計期間	第49期 第3四半期 連結累計期間	第48期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高(千円)	26,587,580	27,051,654	35,241,701
経常利益(千円)	456,855	909,158	739,223
四半期(当期)純利益(千円)	201,467	502,268	341,072
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	144,730	509,340	358,687
純資産額(千円)	8,586,485	9,218,284	8,800,359
総資産額(千円)	17,945,914	18,275,585	17,425,352
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	26.47	65.99	44.81
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	47.8	50.4	50.5

回次	第48期 第3四半期 連結会計期間	第49期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成23年10月1日 至平成23年12月31日	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	31.32	37.49

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。
なお、主要な関係会社の異動は、以下のとおりです。

(生産部門)

第1四半期連結会計期間において、新規設立により株式会社あじかんアグリファーム(連結子会社)を連結の範囲に含めております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要などを背景に、緩やかながら回復の傾向も見られるなか、平成24年12月の衆議院議員総選挙を契機に、為替や株式市場にも明るい兆しが見られるようになりました。しかしながら、欧州債務危機や海外経済の低迷など、国内経済に与える影響は依然として厳しく、先行不透明感を払拭できない状況で推移いたしました。

食品業界におきましても消費者の節約志向は依然として強く、同業他社との低価格競争が激しさを増す一方で、高止まりする原油・穀物価格などが企業収益を圧迫する厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループは第9次中期経営計画をスタートさせ、変化の激しい時代に対応するため、第一に「商品の研究開発と技術開発の強化」、第二に「営業基盤の拡充と市場開拓」、第三に「利益構造の改善」、第四に「全社供給体制の強化と効率化」、第五に「経営効率・経営品質の向上」を重点施策とした取り組みを展開しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は27,051百万円（前年同四半期比1.7%増加）、営業利益は844百万円（前年同四半期比55.1%増加）、経常利益は909百万円（前年同四半期比99.0%増加）となり、四半期純利益は502百万円（前年同四半期比149.3%増加）となりました。

なお、セグメント別では、営業部門におきましては西日本エリアでのスーパー向け需要が減少するなど、厳しい状況もありましたが、特に東日本エリアにおいてコンビニエンスストアやスーパーマーケット、弁当店を中心に厚焼玉子などの玉子製品や野菜加工品の需要が増加し、売上高は前年同四半期を上回る結果となりました。また、平成22年12月に新規事業の一環として立ち上げた「ごぼう茶」につきましても各種イベントや広報活動を積極的に行った結果、通信販売を中心に売上が拡大し、売上・利益とも当初予想を大きく上回る状況で推移いたしました。

他方、生産部門におきましては、原油価格や穀物価格の高止まりに起因した副材料・補助材料費の上昇による製造原価の上昇要因はありましたが、当社グループの主要原材料である鶏卵価格が需給の関係から比較的安価に推移したことに加え、省エネ活動などによる変動費の抑制、また、自社製造製品の売上拡大に伴う生産稼働率の向上などにより、製造原価率は前年同四半期を大きく下回る結果となりました。

(2) 財政状態の分析

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ850百万円増加し18,275百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ921百万円増加し10,797百万円となりました。主な増減要因は、繁忙期の売上高増加による受取手形及び売掛金の増加782百万円、販売政策に伴う商品及び製品の増加392百万円、原材料の備蓄に伴う原材料及び貯蔵品の増加134百万円、現金及び預金の減少389百万円などです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ71百万円減少し7,478百万円となりました。これは生産設備を中心とした固定資産の取得による増加要因はあったものの、減価償却の進行などが主な減少要因となったためです。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ432百万円増加し9,057百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ728百万円増加し8,125百万円となりました。主な増減要因は、繁忙期の仕入高増加による支払手形及び買掛金の増加1,192百万円、約定返済による短期借入金の減少215百万円、賞与引当金の減少110百万円などです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ296百万円減少し931百万円となりました。主な減少要因は、長期借入金の減少270百万円などです。

なお、当第3四半期連結会計期間末の借入金残高は、前連結会計年度末に比べ485百万円減少し3,070百万円となっております。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ417百万円増加し9,218百万円となりました。主な増減要因は、四半期純利益の計上による増加502百万円、剰余金の配当による減少91百万円などです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.1ポイント減少し50.4%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、271百万円です。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,700,000	同左	東京証券取引所市場第二部 大阪証券取引所市場第二部	単元株式数 100株
計	7,700,000	同左	-	-

(注)平成24年10月1日より、1単元の株式数を500株から100株に変更しております。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	-	7,700,000	-	1,102,250	-	1,098,990

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式数	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 88,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,584,500	15,169	-
単元未満株式	普通株式 27,000	-	-
発行済株式総数	7,700,000	-	-
総株主の議決権	-	15,169	-

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有株 式数(株)	他人名義所有株 式数(株)	所有株式数の合 計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(株)あじかん	広島市西区商工セン ター七丁目3番9号	88,500	-	88,500	1.15
計	-	88,500	-	88,500	1.15

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,539,402	1,149,481
受取手形及び売掛金	5,420,804	6,203,682
商品及び製品	1,867,695	2,260,635
仕掛品	7,489	2,232
原材料及び貯蔵品	741,869	876,099
繰延税金資産	135,624	89,771
その他	182,882	232,105
貸倒引当金	19,894	16,624
流動資産合計	9,875,874	10,797,383
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,641,612	1,559,015
機械装置及び運搬具(純額)	954,220	999,037
土地	2,957,295	2,957,295
リース資産(純額)	58,621	66,498
その他(純額)	223,989	220,995
有形固定資産合計	5,835,739	5,802,842
無形固定資産		
リース資産	57,556	55,834
ソフトウェア	150,632	109,503
その他	24,703	24,316
無形固定資産合計	232,892	189,655
投資その他の資産		
投資有価証券	550,071	549,510
繰延税金資産	84,194	77,198
その他	864,288	876,949
貸倒引当金	17,708	17,954
投資その他の資産合計	1,480,845	1,485,704
固定資産合計	7,549,477	7,478,202
資産合計	17,425,352	18,275,585

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,627,536	3,820,064
短期借入金	2,978,700	2,763,637
未払法人税等	218,315	167,408
賞与引当金	266,000	156,000
役員賞与引当金	26,046	22,657
リース債務	79,485	74,698
その他	1,200,927	1,121,273
流動負債合計	7,397,012	8,125,738
固定負債		
長期借入金	577,400	307,000
退職給付引当金	149,040	125,022
役員退職慰労引当金	306,516	324,235
資産除去債務	43,454	43,884
リース債務	151,569	129,919
その他	-	1,500
固定負債合計	1,227,981	931,562
負債合計	8,624,993	9,057,301
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,102,250	1,102,250
資本剰余金	1,098,990	1,098,990
利益剰余金	6,756,739	7,167,674
自己株式	64,219	64,300
株主資本合計	8,893,759	9,304,614
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	37,758	42,884
為替換算調整勘定	131,158	129,213
その他の包括利益累計額合計	93,400	86,329
純資産合計	8,800,359	9,218,284
負債純資産合計	17,425,352	18,275,585

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	26,587,580	27,051,654
売上原価	20,351,155	20,280,875
売上総利益	6,236,425	6,770,778
販売費及び一般管理費	5,691,673	5,925,833
営業利益	544,751	844,945
営業外収益		
受取利息	1,575	1,082
受取配当金	8,251	9,242
通貨スワップ評価益	24,199	41,314
長期為替予約評価益	-	80,003
持分法による投資利益	8,699	3,967
その他	10,463	15,987
営業外収益合計	53,189	151,597
営業外費用		
支払利息	24,951	24,004
為替差損	83,490	59,924
長期為替予約評価損	29,641	-
その他	3,002	3,455
営業外費用合計	141,085	87,384
経常利益	456,855	909,158
特別利益		
投資有価証券売却益	-	895
特別利益合計	-	895
特別損失		
固定資産除却損	2,842	8,139
投資有価証券評価損	3,550	-
特別損失合計	6,392	8,139
税金等調整前四半期純利益	450,463	901,914
法人税、住民税及び事業税	168,794	349,827
法人税等調整額	80,201	49,818
法人税等合計	248,995	399,645
少数株主損益調整前四半期純利益	201,467	502,268
四半期純利益	201,467	502,268

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	201,467	502,268
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	35,736	5,126
為替換算調整勘定	15,436	1,038
持分法適用会社に対する持分相当額	5,563	906
その他の包括利益合計	56,737	7,071
四半期包括利益	144,730	509,340
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	144,730	509,340

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、新規設立により株式会社あじかんアグリファームを連結の範囲に含めております。

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による損益への影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	18,240千円	6,798千円
支払手形	133,205	171,519

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	497,388千円	413,758千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	91,336	12.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	91,333	12.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	営業部門	生産部門			
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	26,587,580	-	26,587,580	-	26,587,580
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	2,300	7,297,487	7,299,787	7,299,787	-
計	26,589,880	7,297,487	33,887,367	7,299,787	26,587,580
セグメント利益	1,953,442	195,068	2,148,510	1,603,759	544,751

(注)1. セグメント利益の調整額 1,603,759千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用
1,577,283千円及びたな卸資産の調整額 23,430千円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	営業部門	生産部門			
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	27,051,654	-	27,051,654	-	27,051,654
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	542	7,839,447	7,839,989	7,839,989	-
計	27,052,196	7,839,447	34,891,643	7,839,989	27,051,654
セグメント利益	1,942,071	426,395	2,368,466	1,523,521	844,945

(注)1. セグメント利益の調整額 1,523,521千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用
1,538,716千円及びたな卸資産の調整額30,131千円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	26.47円	65.99円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	201,467	502,268
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	201,467	502,268
普通株式の期中平均株式数(株)	7,611,277	7,611,061

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月13日

株式会社あじかん
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小松原 浩平 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 千々松 英樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社あじかんの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社あじかん及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。